



学校教育目標

- 進んで学習する生徒
- 明るく心やさしい生徒
- 体を鍛える生徒

『蕨東のあいさつひとつで笑東に』

「生徒一人一人を大切に信頼される学校」

東中だより

生徒数(名)
男子 162
女子 177
計 339

令和6年4月25日 第2号

Tel 048・442・5370 Fax 048・442・5377

さわやか相談室 Tel 048・445・6692

E-mail higasijh@warabi.ne.jp

開校記念日に寄せて

校長 阿部 仁

本日4月25日は本校第64回目の開校記念日です。

本校は昭和35年9月15日の蕨市立第一中学校分教場として開設され、昭和36年4月1日独立し設立されました。初代校長には野中武先生が任命され同年4月25日に開校式並びに落成式をして開校、その後学校の形が整い38年に校旗・校歌が制定されました。

右上の写真は、開校記念式典の様子を写したのですが、ここに映っている校舎も、昭和63年に取り壊され、平成元年に現在の新校舎が完成し、翌平成2年1月20日に、創立30周年並びに新校舎落成記念式典が開催されております。なお、昭和42年の10月23日は本校体育館が国体相撲会場でもありました。

校長室に保管されている古いアルバムや記念誌等を紐解いてみると、校舎の建て替えのために、プレハブの仮校舎での授業風景があったり、新校舎(現在の校舎)が完成した当時の、白く輝く外壁が、新しい東中学校の時代を切り拓く象徴のような佇まいで建っていたりなど、歴史の重みを感じさせます。

さて、校舎の構造というのは、単に敷地面積や地形など、外的要因の制約で形作られるものではなく、教育的意味を考慮して構造化されているものが大部分であると認識しています。その観点から現在の校舎をみると、校舎全体の中心位置(つまり、三角屋根の位置)の各階にオープンスペースを置き、その両側に教室を配置する構造となっています。建築の専門家ではないので、確定的なことは述べられませんが、生徒たちがこのオープンスペースで日常的に「ふれあう」場を創出できるように、敢えて設計したのかも知れません。

愛媛県八幡浜市に「日土小学校」という学校があります。建築家松村正恒氏の設計によるのですが、各教室をモジュールに見立て、それを廊下でつなぎ合わせる、見事な木造建築物で、国指定重要文化財にもなっています。この校舎に入ると、至る所に児童たちが安全に、且つ快適に過ごせる工夫が施されており、絶妙な角度で作られた屋根やベランダにより、常に太陽の光が校舎内に降り注ぐ明るさとともに、木造建築ならではの温かさを感じることができます。今から十数年前に、この校舎に一步足を踏み入れたときに、私は思わず、「なんと子供たちに優しい校舎なのだろうか」と衝撃を受けたことを覚えています。建物の形状の面白さや外見の壮麗さを感じることはあっても、“設計者の意図”を感じることは滅多にないのですが、この時ばかりは、松村氏の“意志と思い”が感じられました。

「教育環境」という言葉があるように、生徒が毎日生活する場である、教室を含めた「学校の校舎」が醸し出す環境は、そこに集う全ての人々に影響を与えるものであると考えています。躯体の構造に秘められた意味を解釈することは中々難しいものですが、先人たちが作り上げ、歴史を築いてきたそれら全てを、今の私たちが享受している「東中学校の教育環境」と捉えるなら、本日の開校記念日は、その歴史の重みと先人たちの意志に、思いを馳せる日でもあると思うのです。



【昭和36年4月25日開校式典の写真】



【平成元年 プレハブ校舎から見た新校舎】(創立30周年記念誌から)